

## 議会会報委員会行政視察報告

日 程：平成 24 年 11 月 5 日（月）～平成 24 年 11 月 6 日（火）

視察先：千葉県柏市、東京都町田市

参加者：加根委員長、梶谷副委員長、大谷委員、麻生委員、西本委員、宮川委員、谷委員、下村委員  
事務局随員 1 名

### ● 千葉県柏市（11 月 5 日）

【人 口】 397,592 人 【面 積】 114.90 k m<sup>2</sup>

### ◆ 調査事項「議会会報編集委員会から議会広報委員会への改組について」

#### ・ 取り組み概要

柏市では、市議会の広報をより充実させるため、平成 22 年度に議会会報編集委員会から議会広報委員会に改組された。この度の視察では、改組への経緯及び改組による新たな取り組みなどについて話を伺った。

#### ○ 市議会だよりについて

発行回数：定例会ごと年 4 回、新年号 1 回

※改選時には臨時号を発行

定例会終了後の翌月 15 日発行

発行部数：約 140,000 部

配布方法：新聞折り込みと宅配



#### < 議会広報委員会の概要 >

##### ① 設置

- ・平成 12 年 5 月に「議会会報編集委員会」設置（任意の委員会として発足）
- ・平成 20 年 9 月に地方自治法上の協議等の場に位置づけ
- ・平成 22 年 9 月に名称を「議会広報委員会」へ変更

##### ② 委員会の概要

- ・委員数：定数 10 名
- ・選出方法：会派に所属する議員の数に応じて、按分した人数を会派から選出
- ・開催：1 定例会に 2 回開催（定例会採決日及び初校納品直後）

##### ③ 委員会での協議内容

###### 1 回目

- （1）紙面レイアウト（事務局案を提示）
- （2）紙面内容で取り上げる事案など
- （3）ホームページ等について

###### 2 回目

- （1）紙面内容の確認
- （2）大見出しの決定
- （3）ホームページ等について

## &lt;議会だよりの概要&gt;

**1 記事の作成**

個人質問をした各議員へ記事の作成を採決日に依頼する。原稿の締め切りは3営業日後。  
議会報の担当職員4名で議員ごとの紙面担当を決め、提出された原稿のチェックを行う。

**2 入稿**

記事と写真をSDカード等に入れ、レイアウトと一緒に印刷業者へ渡す。

**3 校正**

記事の校正：3回

フィルム校正：1回

刷り出し校正：2回（1回目：1, 4, 5, 8面 2回目：2, 3, 6, 7面）

**4 納品**

新聞折込業者

宅配用に封入する業者

議会事務局へ納品

## ○議会だよりの工夫

- (1) 1面写真の公募（平成22年5月1日 182号から）
- (2) 質問者の氏名を掲載（平成23年2月1日 186号から）
- (3) 議案、請願の会派ごとの表決を掲載（平成23年2月1日 186号から）
- (4) 紙面を4面から8面へ倍増（平成23年5月1日 187号から）
- (5) 表紙及び最終面のみカラーで墨1色に変更（平成23年5月1日 187号から）

## ○経費削減の取組

平成23年度から4面紙面から8面紙面に変更したが、タブロイド版から四六版に変更したため、費用は約半分となった。

## ○市民からの反響

- (1) 印刷色を墨1色としたが、苦情要望等なし
- (2) 表決は会派ごとでなく、議員単位での掲載を要望

## ・委員の感想

○議会だよりについてでは、タブロイド版のサイズダウンによるコストの削減努力がある。

また、表紙の写真では公募によって市民から集められた写真を選定し時期に応じた写真を掲載されていることに感心した。

本市は、事務局側の写真を多く使用しているが、公募も良いのではないかと思います。

※編集委員から広報委員会に改組については、やはり順を経て段階的に行っている。

（H12年5月に任意の委員会を発足～H20年9月自治法上の協議の場に位置づけ～H22年9月に広報委員会に変更されている。）

本市においては、活性化特別委員会において会報委員会のこれからのあり方、更に位置づけ等・・現在検討中である、期待したい。

- 千葉県柏市の改組により、会報誌のみでなくホームページ業務が広がり担当業務が増加した。また、定例会、委員会の内容を大幅に見直して議会活動の内容を解りやすくしている。

(ページ数を増やし市民の反響は解りやすく好評)

表決については、全議案を議員ごとに掲載し、市民要望に答えている。

- 議会報編集委員会から議会広報委員会への改組による影響として一般質問の質疑応答を議会事務局まかせから議員自ら執筆するようになったことが挙げられる。主観性と客観性を両立することがむずかしいと思うが好ましい方向と考える。

それ以上の機能（たとえば議会報告会のコーディング等）の付加は一切なく、単なる編集の域をこえるものが見当たらなかった。

- 議会ホームページ等による議会の広報が加わったため。個人質問の質疑応答記事は質問者自身が作成する。会報作成のスピードにつながっている。



四六版となり、一回り小さくなった議会だより（左）

- 議会報をタブロイド版 4 面紙面から、ほぼ同サイズの四六版 8 面紙面に変更することで作成経費を削減。情報量を増やしながら経費を削減した事例は参考となった。また、議場の賛否の表示システムについては、押しボタン操作による賛否の方法を活用し、その情報を議場内正面のオーバーヘッドスクリーンに写し出すことによって、個人別に賛否の状況を公開できるようになっており、非常に判りやすい。大きなスクリーンと映し出す PC プログラムが必要であると感じた。
- 議会だよりの一般質問記事について、以前は、誰がしたものか分らず、分野ごとにまとめて記事にしていたが、質問者ごとの記事に変更したとのこと。逆にこれまで議員名を隠していたことに驚いた。また、編集後記を削除した理由が、委員の名前が表に出るからだと言う。驚くべき議会があったものだ。議会だよりの用紙を規格品にしたら格段に安くなったとのこと。規格外にしていたことの方が驚く。
- 広報紙に関しては議員の表決態度を会派ごとに掲載していましたが、しかし、議員個人の情報になると会派内で態度が違う場合は、欠席・棄権・除斥の態度も含めて詳しくのせなくてはならず見づらいことも一面ありました。個人別に掲載欄を確保するほうがより住民にとって見えやすい議会になるのではないかと考えます。  
ホームページ(インターネット)の速報には委員会の経過や結果も映像を交えて伝えられており、圧倒的に情報が即時性もあり、先進地として学ぶべきところが多かったと思います。また、議場内の機械にはスクリーンや議員の資料を拡大して映像できるように配慮があり、傍聴者にとって情報を共有できることになり議場の改革にふさわしい先進地ではないかと思えます。
- 人口 40 万人超、面積 114.9 k m<sup>2</sup>、議員定数 36 人、1 定例会 20 人以上の質問者、個人質問の質疑応答記事は当人が採決後 3 日以内に原稿提出する。東広島市議会だよりより 1 カ月早く配布しているところが参考になった。

## ● 町田市議会（11月6日）

【人 口】 420,008 人 【面 積】 71.64 k m<sup>2</sup>

### ◆ 調査事項「市議会ホームページのリニューアルについて」

#### ・ 取り組み概要

町田市では、市議会ホームページをリニューアルされたが、変更された経緯及び内容について話を伺った。

##### ○ システム更改について

平成 22 年 10 月 ハードウェア更改（仮想化）

平成 23 年 10 月 ホームページの機能改造

平成 24 年 7 月 新庁舎移転に伴う機能追加

##### ○ ハードウェアの仮想化

町田市の業務システム、図書館システム、市議会のシステムなどは、それぞれ独自にハード機器を用意し、運用していたが、各システムで実物のハード機器を用意せず、これらの機器をサーバー内で仮想的に構築することとした。

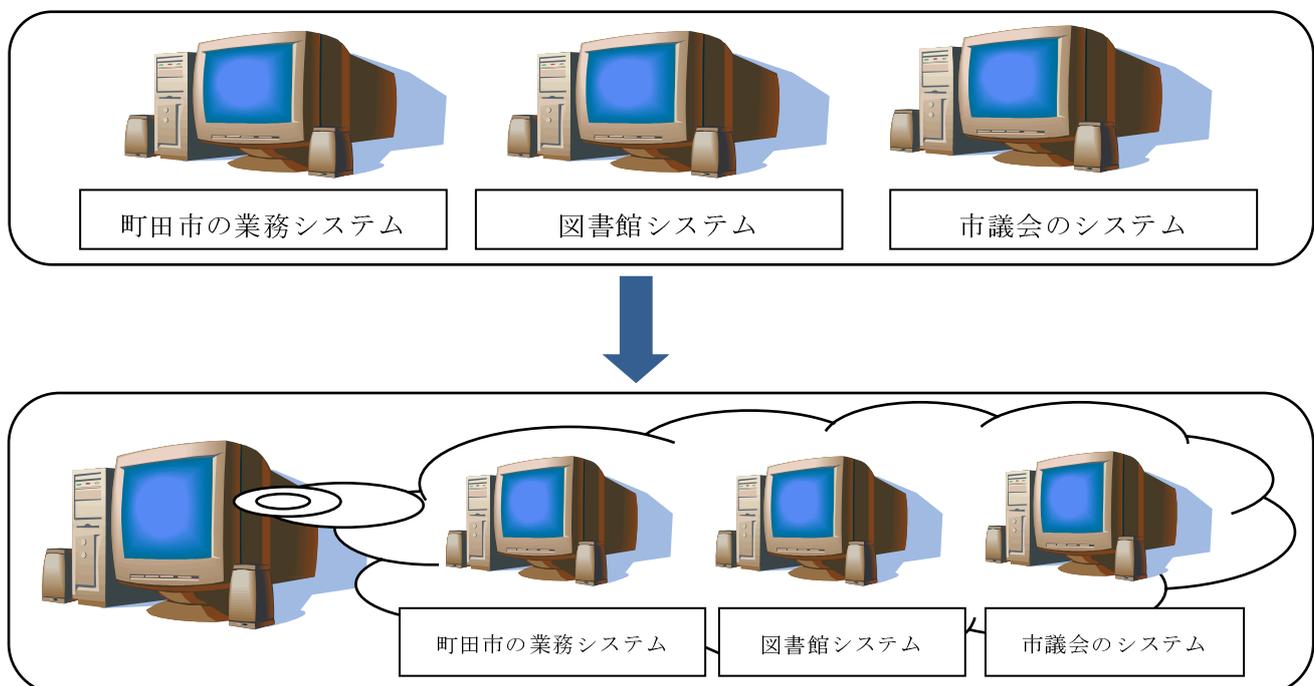
##### メリット

- ① 3 台のサーバーが 1 台のコンピューターの中に構築されたため、サーバー間の通信が早くなり、ホームページの体感速度の向上
- ② 物理的な故障の心配の軽減
- ③ 情報システム管理部門がシステム障害を監視するようになった

##### デメリット

- ① 他システムで発生した障害が市議会システムに影響する可能性ができた
- ② 事故に関して、責任の所在が不明確なケースが出始めた。

##### イメージ図



○ホームページの機能改造（平成 23 年度実施）

**背景**

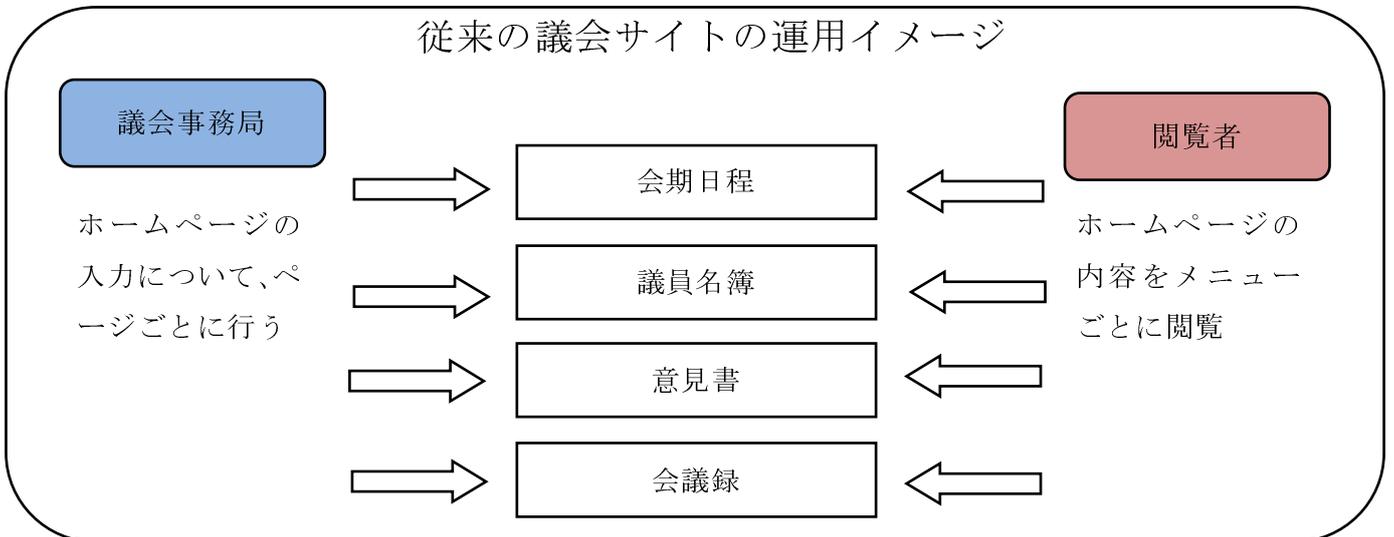
ホームページのOSについて、メーカーサポートが2010年7月に終了するため、コンピューターウイルス等の脅威にさらされた状態となるため、対応が必要となり、OSを変更することとなったが、新しいOSで既存のホームページが正常に動作しない可能性があったため、全面的な機能改造することになった。

**変更点** ～静的なホームページから動的なホームページへ～

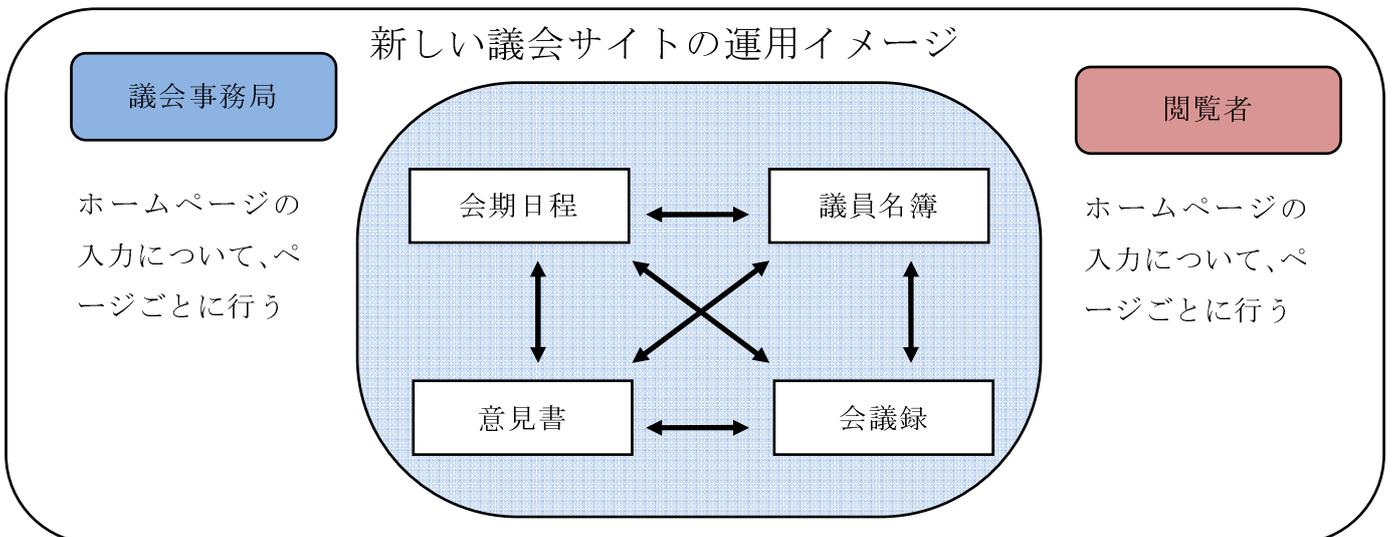
- ・従来の議会サイト：議会事務局でページごとに入力作業を行う。また、閲覧者もページごとに内容を閲覧する。
- ・新たな議会サイト：会議日、議員名等で掲載内容が有機的に結びついているため、データが各画面で共有できる。閲覧者も関心のある情報から、映像・会議録に自由に移動できるので、映像・会議録を閲覧しやすくなる。

**運用イメージ**

従来の議会サイトの運用イメージ



新しい議会サイトの運用イメージ



## ○定性効果

- (1) 簡易コンテンツマネジメントシステムの導入による、情報提供の即時性向上
- (2) 資料の閲覧機能の向上（議案、請願、決算審査報告書など）
- (3) 議案の審査過程の掲載
- (4) 各議員の賛否の状況
- (5) 委員会中継（生放送、録画放送）開始⇒4 常任委員会の同時放送に対応

## ・委員の感想

○HPシステムの仮想化を実現し最新機器の導入によって伝達スピードのアップ更に議会及び市全体的な動きが市民にしっかりとリアルタイムで発信していくなど、かなりのレベルの高さを感じた。好評価です。

メリット

- 1、3 台のサーバーが 1 台サーバー間の通信スピードがアップ
- 2、物理的な故障が軽減
- 3、情報システム管理部門がシステム障害を監視するため議会事務局の負担が軽減された。

デメリットもあるが、今後しっかりと解決されるだろう！！

一番驚いたのは、各常任委員会の会議の様子をリアルタイムで発信していることです。市民が観たい聴きたい等・・・関心のある部分を選択できる。

（本当に市民に開かれた取り組みであるように思いました。）

○町田市は、議会の放映、議事録の検索システムを導入し静的なホームページから動的なホームページに改訂された。

このことにより、議会、各常任委員会の状況が詳細に早く市民の皆様へ伝えられ、市民要望に答えている。

ホームページのリニューアルにより閲覧件数が多少改善されている。

結果に基づく本市への反映とし、議会の動きを如何に市民の皆様へ、早期に、解りやすく伝え魅力ある広報誌づくりに取り組みます。

○インターネットによる情報公開をここまでやるかという驚きとすばらしいの一言につきる。

すべての議会情報（議案、賛否情報等）をすぐに一般市民に開示する姿勢が好ましい。

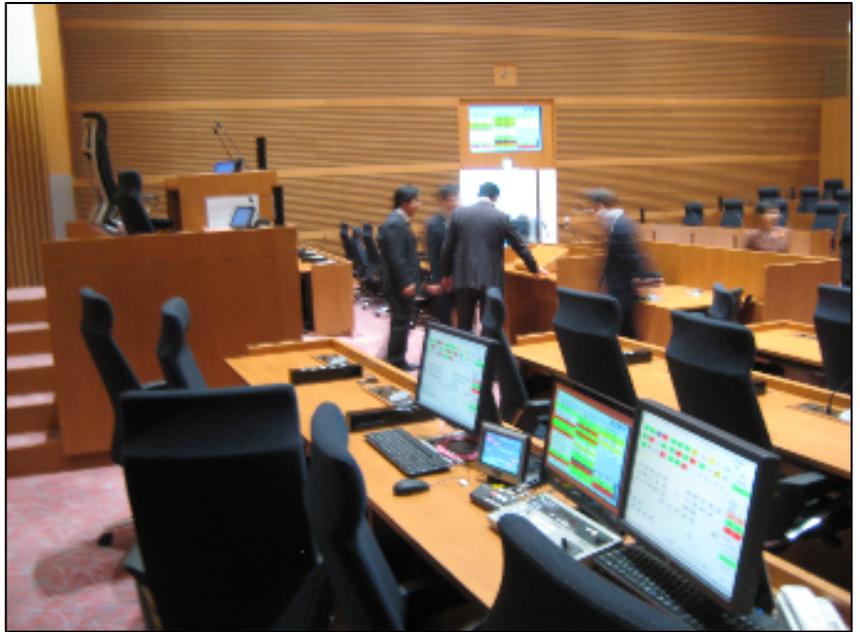
ただ、アクセス数が 40 万都市の割には少なかったのが残念である。

本会議のみならず、すべての委員会をインターネット中継すると、議員はあくびすることもできず緊張感を維持する必要がある。市議会議員の平均年齢が 49 歳と極めて若く熱い熱い市議会のような感じがした。



○議場放映、議事録検索システム導入により、本会議中継（生中継、録画放送）、委員会中継（生中継、録画放送）は4常任委員会の同時放送に対応し、インターネットで見ることができる。一切編集無しで休憩中も生中継で市民の関心も高い。ここまでは最高だが恐い気もする。ホームページ最先端の町田市を視察し、全く新しい世界を見た。感動した。

○静的なホームページから動的なホームページへと言う取り組みの中で運用イメージが個別の入力、個別の閲覧からデータベース化することによって、データの共有（入力作業の省力化）と関心のある情報から自由に移動できる閲覧機能の向上（閲覧の容易化）が行われていた。議案の審議過程の掲載や各議員の賛否情報（状況）など情報量の多さに驚いた。また、委員会や本会議の様子が編集されずに生中



継されていることにも関心を持った。いずれにしても、システム構築のためのハード&ソフト整備が必要である。議会に係る会派室、議場のセキュリティーの高さ、充実は本来あるべき姿であり、学ぶ点が多かった。

○議長の強い意志により、議会ホームページをリニューアル。どのページからも相互にアクセスできる動的で機能的なホームページでした。

「委員会の審査状況を公開せよ」との議長の命令により、各委員の発言や会議資料等あらゆるものをスピーディーにネット公開している。電子投票システムにより全議案を記名投票扱いにして、表決態度を公表し、また、委員会もネットで生中継（休憩中もカットせず）するなど、非常に参考になった。

○広報紙についても、インターネットでのホームページについても積極的に情報を共有し、伝達するという点に関しては、大変参考になりました。広報紙の配布については大都市の事情もあり、新聞折り込みと連絡が入れば直接届けるという対応をされており、届けられていない一万世帯については限界のある方法ではないかと思えます。庁舎が今年建設されたばかりで、議場の表決システムも柏市と同様、映像に一人一人の議員の態度が映し出され、傍聴者にとっても大変わかりやすいものでした。議会運営委員会や、議会改革・活性化特別委員会の委員の方にも見てもらったかったような、素晴らしい設備です。

○東京都内にある町田市 42 万 5 千人、面積 71.64 k m<sup>2</sup>。今年の 7 月に新庁舎完成。一般会計歳入歳出額 1,354 億円。毎回質問者の数が定数 36 人中 30 人以上には感心した。委員会のライブ中継は参考になった。さすが、財政力指数 1.15。不交付団体である事を実感した。